

多自然川づくり取り組み事例

タ イ ト ル : 太田川 多自然川づくり計画		
水系／河川名 :	神通川水系／太田川	河 川 分 類 : 都市河川
河川の流域面積 :	5km ²	整備計画流量 : 100m ³ /s(W=1/50) セグメント : 1
事 業 :	河川改修	事業開始年度 平成17年度
目 標 設 定 :	なし	段 階 : P(計画時)
課題・目的(主な): 流下能力の確保、水辺へのアクセス改善		
工 法 (主 な) : 引堤、掘削(河床)、護岸整備		
配慮事項(主な): 河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景>

太田川は富山市街地を流れ神通川に至る都市河川であり、昭和44年の大きな氾濫被害を受け改修事業に着手したが、急激な市街化の進展に伴い、雨水の川へ流れ込む時間が早まり、事業着手当時と比べ洪水の危険性が増している。

従前は洪水対策を主眼に一般的なブロック積み護岸を整備してきたが、平成9年の河川法改正を契機に環境性にも一部配慮した護岸構造を採用。平成17年には、河川毎に特有の地域性を踏まえることで画一的な整備とならないよう富山県が取り組んでいる「高志き豊かな川づくり事業」の一環として、生活空間としての河川を持つ多様性を重視した多自然川づくりを地域住民参加をもとに進めることとした。

取り組み内容・対策例

<取り組み内容>

当該事業地は、保育所や小学校が近接する住宅地であり、憩いの場や自然と触れ合う学習の場として地域に密着した水辺空間となっていることから、地元住民との懇談会を設けて意見調整をしながら改修計画を策定した。



整備前



児童の学習風景



川づくり懇談会



完成イメージ

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<取り組みの結果>

懇談会では、従来からある川沿いの桜並木を残した護岸構造や、川へ近づきやすくする親水スペースを確保することなど、地域との連携を重視した整備方針を提案。桜への影響や道路交通への配慮、学習の場の確保等について多くの意見が出され、出来る限り計画に反映。懇談会として成案を得られ、現在、順次工事を進めている。

<今後の対応>

工事が概成した区間では、今のところ桜並木への影響は見られていないが、河道内については、従前の植生や瀬・淵が工事により一時的に失われたことから、今後の状況を注視していく。

未着工区間では、懇談会時の計画を踏まえながら、経年による状況変化等に柔軟に対応していく。



備考

問い合わせ先	富山県 富山土木センター 工務第二課 河川班
電話番号	076-444-4456

太田川多自然川づくり計画

Keywords : 川づくり懇談会, 水辺学習の場, 桜並木

Before



After



保育所や小学校が近接する住宅地であり、憩いの場や自然と触れ合う学習の場として地域に密着した水辺空間となっていることから、地元住民との懇談会を設けて改修計画を策定した事例を紹介する。